

【調査速報】 古代東海道沿いの倉庫発見か!? -栗東市高野遺跡-

【最新情報】 「文化館チャレンジ」ホームページで始めました

【展示案内】 レトロ・レトロの展覧会 2020 特別陳列 1 高野遺跡

【展示案内】 第 62 回企画展「お城のリユースー信長・光秀・家康ー」

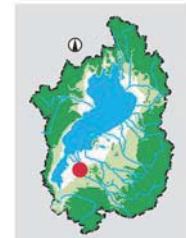
【調査紹介】 木製品の保存処理 - 真空凍結乾燥法 -



【調査速報】

古代東海道沿いの倉庫発見か!?

栗東市 高野遺跡 -六地蔵地区は場整備工事に伴う発掘調査-



発見された倉庫の建物跡

(写真: 滋賀県教育委員会 提供)

高野遺跡は栗東市高野・辻・六地蔵に広がる遺跡で、野洲川の左岸扇状地に位置しています。遺跡の範囲内において、は場整備工事が計画されたため、平成 30 年度から発掘調査を実施しており、現在も継続中です。

この遺跡の南端部付近には、奈良時代末から平安時代にかけての古代東海道が東西方向に通過していたと推定されています。その推定ルートに近接する付近で、倉庫となる建物跡が確認されました。荷重に耐えられる総柱構造をし、床の下にも柱を持つ高床の建物と考えられます。南北約 4 m × 東西約 5 m の規模があり、床面積は 12 畳ほどの広さです。年代は奈良時代末（約 1,200 年前）と考えられます。

倉庫の北側約 2.5 m の地点では、東西方向に延びる溝 2 条が見つかりました。これらは古代東海道の側溝である可能性があります。溝と倉庫は向きをそろえて見つかっていることから、倉庫は道に面して建っていたと想定されます。現在東海道とされるものは近世以降に整備されたもので、調査地付近における古代のルートは歴史地理学の研究から推定されてきました。今後の発掘調査によって具体的な位置の解明が期待されます。

【詳しくは次のページ】

栗東市 高野遺跡 －古墳時代の竪穴建物も発見－

◆高野遺跡のこれまでの調査

高野遺跡では、昭和 57 年（1982 年）の宅地造成に伴う発掘調査が実施されて以来、複数の調査が行われています。これまでの調査から縄文時代前期（約 7,000～5,000 年前）から近代にかけての複合遺跡として周知されており、特に古墳時代（3～6 世紀、約 1,800～1,500 年前）には県内でも有数の大規模集落が形成されていたことが知られています。

◆今回の調査成果

今回の調査は、高野遺跡でも南部の六地蔵地区で実施しており、古墳時代の竪穴建物や奈良時代の倉庫など、古墳時代から近代にかけての遺構・遺物が確認されました。

なかでも前のページで紹介した倉庫と溝は、古代東海道と周辺施設である可能性があり注目されます。

◆古墳時代から鎌倉時代にかけての調査成果

古墳時代の竪穴建物は 15 棟確認されています。平面形が方形をし、一辺 5m 前後の規模が多く、最大のものでは約 7m の規模があります。床面からは煮炊きなどに使用した施設が見つかりました。古墳時代前期から中期と考えられるものは床面の中央付近に地面を掘りくぼめた炉を持ち、古墳時代後期のものは壁際に土を固めて造ったカマドを持ちます。このほかにも屋根を支える柱の穴や、食料を蓄える貯蔵穴などが確認されています。

古墳時代後期から鎌倉時代にかけての溝もたくさん見つかりました。規模は様々ですが、平安時代前半までのものは、ほぼ南北または東西方向に延び、鎌倉時代のものは現代の水田と同じ向きに延びています。

出土遺物は、これらの遺構などから土器などが出土しました。なかには土で作られた馬の形代である土馬（右ページ下の写真）も出土しました。

◆調査成果のまとめ

①野洲川左岸扇状地における古墳時代前期～後期にかけての集落の一端を捉えることができました。

②今回見つかった倉庫は、古代東海道に沿った建物であった可能性があります。古代東海道の時期とルート、周辺の状況を考えるうえで貴重な成果と言えます。



古墳時代後期の竪穴建物群



貯蔵穴をもつ古墳時代中期の竪穴建物



古墳時代後期の竪穴建物のカマド

（写真：滋賀県教育委員会 提供）



現地説明会資料



【最新情報】滋賀県立琵琶湖文化館より

「文化館チャレンジ」ホームページで始めました

滋賀県立琵琶湖文化館は平成20年度より休館していますが、ホームページでは、重要文化財を含む貴重な収蔵品の詳しい解説やデジタルアーカイブ、ブログなどを通じて積極的に情報発信を行っています。

収蔵品紹介では、仏像の背中や絵画作品のアップなど普段見ることのできない画像を見ることができます。また、ブログではマスコットキャラクターのあきつ君が琵琶湖文化館の近況や滋賀の文化財情報を楽しくお届けしたりしています。

さらに、この度、おうちにいても楽しめる「文化館チャレンジ」を新しく始めました。収蔵品や滋賀の歴史・文化財について楽しく学ぶことができる「クイズチャレンジ」では、いろいろと考えながら、ホームページをヒントに答え合わせができる仕組みとなっています。また、あきつ君の「ぬり絵」や描いた作品がイラストになる「描いてみよう」へのチャレンジは、子どもたちにも親しみを持って楽しんでいただける内容です。

文化館のホームページで、いろんな“気付き”や、ちょっと“楽しい”を見つけてくださいね。



知るは楽しい！琵琶湖文化館

クイズ チャレンジ !!

問題



琵琶湖文化館にある作品の中でも1・2を争う別嬪さん「江口君」。
この美しい女性、実は、動物の背中の上に乗って手紙を読んでいます。
さて、その動物とは、次のうちどれでしょう？

ヒント：この女性は、慈悲のほとけ：普賢菩薩に見立てられています。

[→文化館HP近江の文化財 < 収蔵品紹介 < 絵画 < 江口君図]

「クイズチャレンジ」

滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL. 077-522-8179 FAX. 077-522-9634
E-mail : biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
URL : http://www.biwakobunkakan.jp/



文化館ホームページ



「ぬり絵」



琵琶湖文化館は
「おうちミュージアム」に
参加しています。

【展示案内】レトロ・レトロの展覧会 2020 特別陳列1

東海道を探る～道沿いに集う人びと～ 栗東市 高野遺跡

「レトロ・レトロの展覧会 2020」は、発掘調査の成果速報展として開催しています。今回展示する遺跡は、この通信に【調査速報】として掲載しています栗東市の高野遺跡です。

竪穴建物から出土した土器や溝から出土した土馬などの遺物を写真パネルとともに展示しています。ぜひ、ご覧ください。

【展示期間】令和2年5月22日（金）～9月30日（水）

【開館時間】午前9時～午後5時まで

【休館日】土・日・祝日 夏休み期間中は休館なし

【展示場所】滋賀県埋蔵文化財センター 1階ロビー

滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2



展示案内



出土した土馬の頭部（写真：滋賀県教育委員会 提供）

「お城のリユース－信長・光秀・家康－」

戦国時代の近江には、守護である六角氏をはじめとして、明智光秀、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康も城を築きました。なかでも織田信長の安土城は、以後の城のモデルとなります。すべてがオリジナルではなく、既存の城ばかりか寺社もリユースしていました。城のリユースは、信長だけでなく秀吉も家康も行っています。そして彼らが築いた城が廃城となると、再びリユースされました。

本展では、天下人たちが築いた城を、リユースの視点でたどりながら、城の発掘調査で出土した資料、城の遺構や今も残るリユースされた城の建物を写真パネルで紹介します。

【開催期間】令和2年7月18日（土）～9月13日（日）

【開館時間】午前9時～午後5時（ただし入館は午後4時30分まで）

【休館日】8月31日（月）、9月7日（月）

【入館料】大人600(480)円、高大生360(290)円

※小中学生・県内高齢者・障害のある方は無料。

※（ ）は20人以上の団体料金。

※「信長の館」との共通券 大人980円、高大生540円



左：彦根城 右上：安土城跡出土瓦 右下：大溝城跡出土瓦

滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678

TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140

URL : <http://www.azuchi-museum.or.jp/>



博物館ホームページ

※やむをえず、会期を変更する場合がございます。

ホームページにて最新情報をご確認下さい。



【調査紹介】

木製品の保存処理－真空凍結乾燥法－

当協会では、木製品の保存処理を行っています。その方法のひとつである真空凍結乾燥法は、長さ3.2mの木製品まで処理が可能な設備を活用し処理技術の向上に努めている方法です。

味噌汁などのフリーズドライ食品を作る方法と同じもので、木製品を約-40°Cの温度で凍結させたのち真空の環境で乾燥させます。処理後の色合いが明るく仕上がりこと、工程の中で熱を加える必要がないこと、変形や収縮が起きにくいくことなどから、墨書のある木簡や漆器、変形の起こりやすい広葉樹で作られた木製品の処理に取り入れています。

昨年度は県内の長浜市塩津港遺跡から出土した漆器椀や広葉樹の下駄、京都市の白河街区跡（延勝寺跡）から出土した曲物などの処理を行いました。

曲物は京都大学文化財総合研究センターが実施された発掘調査によって出土したものです。直径は32cmで、外面に墨書や墨痕らしい付着物が残ります。形を維持するための物質をしみ込ませる工程を含め、約4カ月で処理が完了しました。処理前よりも色合いが明るく仕上がり、墨書や墨痕も残すことができました。

特定の環境でしか残らない木製品は、当時の生活を知る貴重な遺物です。適切な方法で保存できるようにしていきます。



左：漆器椀 右：下駄（塩津港遺跡 平安時代後期）



曲物（白河街区跡 平安時代後期～鎌倉時代前期）